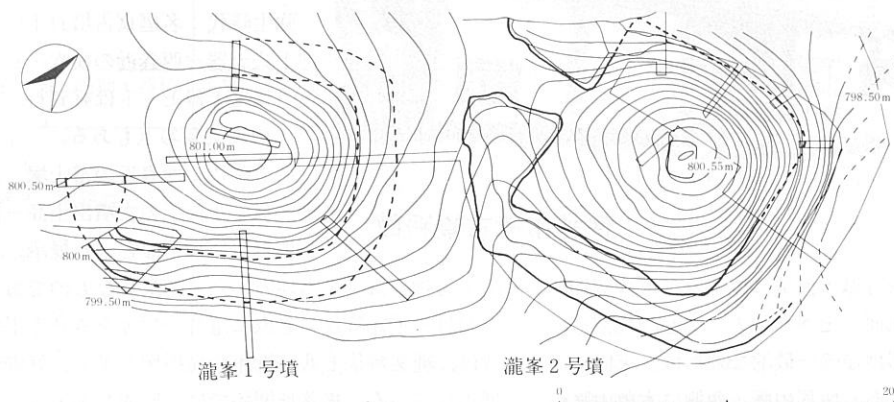


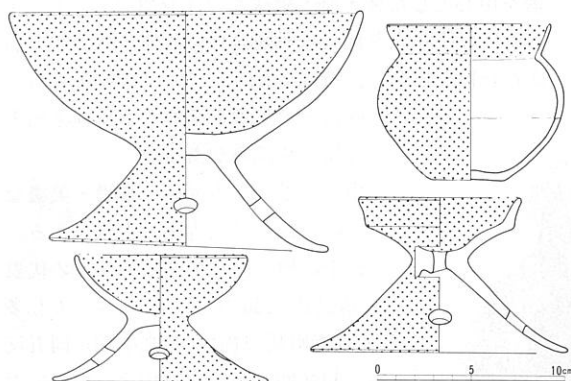
長野県埋蔵文化財ニュース

No. 20 1987. 3. 31 (財)長野県埋蔵文化財センター

松塩筑調査事務所
〒399-07 塩尻市広丘高出1977
TEL 0263-54-2150



(上) 瀧峯1・2
号墳実測図
(下左) 同古墳出土
土器の一部
(1:4)
(下右) 同古墳近景



新発見の前方後方形の墳丘墓

たきのみね

佐久市 瀧峯2号墳の調査速報

佐久市教育委員会 林 幸彦

瀧峯古墳群は、佐久市大字根岸字平井の西方の尾根上にある。1～4号墳は下方から三つめの平坦部にあり、標高800mを測る。眺望は、小諸・軽井沢・白田北部と広範囲に及ぶ。4基とも3～10mと近接して築造され、いづれも墳丘は低い。

佐久地方最古の古墳を追究する目的で、昭和61年7月より佐久市誌刊行会によって調査が行われており、まず、1・2号墳が試掘された。

2号墳は前方後方形を呈し、長さ12.6m、幅13mの方形墳丘西辺部側に、長さ5.7m、前端部の幅4.5mを測る撥形の前方形部の突出部がある。突出部の前端部

だけをのこして周溝がめぐる。墳丘は周溝底より1.3～2.1m、くびれ部より0.6mを測り、盛土は旧表土の上面より盛られている。墓壇は、地山に含まれている円礫を核にして地山のロームを用いて構築している。南北1.6m、東西1.6m、深さ0.25mを測る。遺物は、甕・壺・器台・高杯・小形壺・鉢が主に周溝より出土し、約27個体を数え、在地の弥生後期土器の系譜をひいたものと、新たに出現する器種と器形に特徴をもつものが認められる。

1・3・4号墳もほぼ同様な墳丘墓と思われ、今後興味ある課題といえよう。

埋蔵文化財施設紹介



伊那市考古資料館

〔概要〕伊那市は長野県の南部に位置し、人口57,000人、政治・経済文化面で上伊那地方の中心的役割をになっている。上伊那地域の一般的な地形は、東側に赤石山脈、その前山である伊那山脈、西側に木曽山脈が南北に縦走り、これらの間に天竜川が併走する縦谷状地形を呈している。天竜川の支流となる河川が東・西側に多く存在し、大小様々な扇状地や河岸段丘が発達している。このような地形的条件に恵まれているため、原始時代以来長野県下でも最も各種遺跡密度の高い地域として知られ、著名な遺跡や出土遺物に恵まれた地方といえよう。

この資料館は、木曽山脈（中央アルプス）の山ふところにあり、古刹として寺格を誇る天台宗仲仙寺の境内の一角に建っている。

中央道西宮線建設に伴って昭和46年度から実施された、上伊那地区85遺跡の旧石器時代から近世にいたる数万点の出土品を収蔵、管理、展示するために昭和51年建設された。しかし、その後展示資料の充実を図るため、伊那市教育委員会が実施した市内の遺跡出土品もあわせて収蔵、展示している。

敷地面積4092.6㎡、鉄骨ALC構造日本瓦葺平屋建
床総面積 307.8㎡、室別面積－展示陳列室 106.9㎡
会議室77.8㎡、収蔵保管庫 110.2㎡、事務室13.0㎡

〔主たる展示品〕

縄文時代：伊那市西春近細ヶ谷B・同手良浜弓場両遺跡出土の早期各種押型文土器、同西春近名廻南、山の根両遺跡の前期深鉢形土器から、東春近北丘B遺跡の中期全般にわたる土器群、西春近百駄刈遺跡の後・

晩期遺物などが中心となる。

中でも伊那市富県御殿場遺跡出土の人面把手付香炉型土器（写真）は県下のみならず全国的にみても逸品で、縄文時代観を示す好例として、各種関係出版物にカラーで掲載、紹介されている（市有形文化財指定）。

弥生時代：名廻東古墳封土内の水神平式土器、西春近の横吹・鳥井田等の後期土器セットは好資料。中村出土の硬玉製勾玉もある。

古墳時代：西春近の富士塚、名廻東古墳など郡下の古墳出土品一直刀や馬具・紡錘車などを展示。古墳

出土遺物の稀少な当地方にとって貴重なものである。

奈良・平安時代：急激に遺跡の増加をみせる平安時代は、縄文時代と共に近年の発掘例も多く、好資料を展示している。集落址関係では一般的な土師器・須恵器を中心とした杯・皿・甕などの什器類のセット、平安時代以降移入された灰釉陶器類も耳皿・瓶子類を加え新資料を紹介し、特殊遺物としてカマ印や墨書ある

土師器・須恵器と西春近下牧経塚出土の経筒・和鏡等がある。

中世～近世：古瀬戸・常滑・美濃などの陶磁器、輸入青磁、古銭もある。

以上の他、西宮線関係の郡下の代表的遺跡出土品の占めるスペースも多い。辰野町樋口内城（縄文中期）・同五反田（同晩期）、箕輪町中道（奈良・平安）、南箕輪村高根Bの銅釧、宮田村熊野寺院址（近世）、飯島町尾越・山溝（縄文中期）など、県下でも有数の資料が展示されている。



人面把手付香炉型土器

所在地：伊那市西箕輪羽広3054（0265-78-6166）

交通：伊那市より羽広行バス約20分（途中から徒歩の場合は他の路線もある）

開館時間：午前9時～午後4時、但し、月曜日は午前9時～12時まで

休館日：毎週火曜日・国民の祝日（祝日が火曜日に当たる時は、その翌日）

12月29日から翌年の1月3日まで

入館料：個人 高校生以上100円、小中学生50円
団体 " 70円、" 30円

〈伊那市教育委員会 飯塚 政美〉

南町村だより

長野市における埋蔵文化財保護の現状と問題点

長野市立博物館学芸員 矢口 忠良

長野市は、昭和41年の2市3町3村合併により、周囲119.3km・面積404.08km²の市域を有し、東西を低山地に囲まれ、中央は犀川による扇状地及び千曲川の開析による県下随一の沖積地という複雑な地形上にある。

この市域内に存在する遺跡数を『長野県史』からひろくと、散布地（集落址）338遺跡、古墳1014基を数える。県下の約12,000個所の遺跡のうち11%強を占める。更に散布地の内容をみると、千曲川自然堤防上に大きく5群、その他複合遺跡が87個所あり、旧石器11・縄文117・弥生123・古墳時代58・奈良10・平安178・中世10の各遺跡数となる。このうち発掘調査が実施され記録保存の措置がとられたのは62遺跡（古墳含）があり、緊急発掘によるものは、37遺跡（同）に及ぶ。

緊急発掘は、昭和41年度より実施されたが以下各年度の件数をあげてみると、以下の通りである。

41-3, 42-2, 43-1, 44-1, 45-2, 46-2
48-1, 49-4, 50-4, 51-1, 52-3, 53-3
54-6, 55-3, 56-3, 57-6, 58-6, 59-6
60-7, 61-4, 62-5（+整理3）（62年は予定）

この数値の他に市教委が対応した学術調査が7件、日本窯業史研究所が実施した大規模面積の調査が2件ある。これらの数値をみると、昭和57年度より漸増傾向にあり、その内容も、学校建設・道路建設等公共開発が主体であったのに対し、民間開発および区画整理・は場整備事業に伴う調査が近年増加している。そして補助金関係事業以外の整理および報告書作成は次年度で実施する例も増えている。

当初から〇〇遺跡調査会という遺跡毎の単独組織で調査を実施していたのであるが、調査件数の増加とともに対応しきれなくなり、昭和49年度より「長野市遺

跡調査会」を設立し現在に至っている。もとよりこの調査会は教育長を会長にあてているものの任意の団体であり、事故等に対応する能力をもたないもので責任の所在が明らかでない。ただ有利な面として、緊急を要する調査への小まわりのきく対処ができること、事務処理の簡略化が可能なこと、予算執行処理の迅速化が可能である等をあげることができる。

ところが、中央道長野線が具体化するにつれ、これに伴う関連の事業が予想されるため、長野線早期実現に向け昭和62年4月1日から「長野市埋蔵文化財センター」が設立されるはこびとなった。ちなみに62年度以降の調査予定事業は、篠ノ井塩崎県道バイパス・同国道バイパス・県営は場整備・本線取付け道路等が中央道に関連するもので、一方関越道関連としては松代東寺尾県道バイパスが予想され、更に一般開発の大規模例に塩崎の都市計画道路、信更町は場整備・柳原若槻の区画整理、塩崎聖川改修事業が日程にのぼっている。これを年度別面積についてみると、62年度1.7万m²・63年2.6万m²・64年3.5万m²・65年2.2万m²・66年2.4万m²が調査対象地である。それも道路関係では、篠ノ井塩崎遺跡群・篠ノ井遺跡群などの市内で最も遺構密度の高い地域の開発であり、それなりの対応が求められる。

これに対応する組織をみると、昭和46年度に市教委社会教育課内に文化財係が設けられ、埋蔵文化財関係の行政事務を行ってきたが、前記したように、独立機関としてセンターが設置され、市内の埋蔵文化財の保護にあたることとなった。新機構であるため前途多難な船出になると思うが、埋蔵文化財保護のため一歩前進と考えている。ちなみに昭和62年度における職員の配置は、所長以下所長補佐・庶務係（嘱託）1名・調査係5名（内嘱託2名）を予定している。

最後に調査担当者について触れよう。昭和48年度に1名採用され、56・61年度に博物館学芸員として2名と1名が採用されたが、博物館事業との関わりから実質的には2名で対応してきた。そのため報告書作成等次年度に繰り越された要因にもなってきた。昭和62年度以降の調査面積に対する教育委員会の調査員要人試算では、開発が頂点に達する64年度には、調査だけで10人が必要とされ、職員の確保に課題を残している。



篠ノ井塩崎一本木地籍の遺構群（61年度調査）

長野県内埋蔵文化財発掘調査要覧

(昭和61年4月～62年1月)

							調 査	
No.	遺 跡 名	所 在 地	期 間	目的 原因	主体者	担 当 者	時 代	主 な 遺 構
1	鋳物師屋 鋳物師屋	小諸市大字御影新田字鋳物 師屋981-1 他	61・6・11 61・9・13	ほ 場	市教委	花岡 弘	古・奈・平	竪-17 建-24(奈～平) 溝-6 他ピット群
2	じゅう 十	北佐久郡御代田町大字御代 田字下十二766-3 他	61・4・4 61・8・26	ほ 場	町教委	堤 隆	奈・平	竪-91 建-87
3	やじま 矢島城跡	北佐久郡浅科村大字矢島字 清水場2272-1 他	61・7・20 61・9・6	農 道	村教委	上代 純一	中	検討中
4	信濃国府跡	上田市大字古里字西ノ手	61・11・10 61・11・20	学 術	市教委	五十嵐幹雄	奈～平	建-2 (奈～平)
5	井 戸 下	小県郡丸子町大字塩川字壱 町畑2485-1 他	61・7・22 61・8・3	団 地	町教委	関 孝一 竹内 一徳	古～平	竪-10(古-8, 平-2)
6	いわやどう 岩谷堂岩窟 古墳	小県郡丸子町大字御岳堂字 岩谷堂84	61・11・2 61・11・3	整 備	町教委	関 孝一	古(6C)	葬所跡
7	どう 堂 垣 外	伊那市大字手良野口780 他	61・6・27 61・8・19	ほ 場	市教委	飯塚 政美	中	竪-2 柱穴群3 溝-1
8	やまふしつか 山伏塚古墳	伊那市大字手良野口 1115	61・8・19 61・12・5	ほ 場	市教委	飯塚 政美	?	なし
9	むかい 向 だ 田	伊那市大字手良野口 1235-1	61・9・17 61・10・20	ほ 場	市教委	飯塚 政美	縄・弥・奈 平	なし
10	鳴 神	伊那市大字手良野口 1244 他	61・10・21 61・11・19	ほ 場	市教委	飯塚 政美	縄・奈・平	竪-2 (奈)
11	滝 ノ 沢	伊那市大字手良野口 1282	61・11・26 61・11・29	ほ 場	市教委	飯塚 政美	縄	なし
12	げん 源 なみ 波	上伊那郡箕輪町大字東箕輪 83-1	61・8・26 61・8・29	建 物	町教委	柴 登巳夫	縄	土-8 (縄)
13	じょう 上 きん 金	上伊那郡箕輪町大字福与 317	61・9・17 61・9・26	排水管	町教委	柴 登巳夫	縄・平	竪-2 (縄1, 平1)
14	じやこつばら 蛇行原(上)	諏訪市大字四賀字霧ヶ峰	61・8・18 61・9・20	学 術	市教委	宮坂 光昭	旧・縄	ピ-2 (縄)
15	諏訪神社 上池	諏訪市大字中洲字宮山1	61・9・9 61・9・20	建 物	市教委	宮坂 光昭	平・中・近	祭礼-1 (中)
16	たけ 武 居 はた 畑	諏訪市大字中洲字神宮寺	61・12・1 62・1・10	学 術	市教委	宮坂 光昭	縄文～中	遺構確認
17	たな 棚 ばたけ 畑	茅野市米沢2414 他	61・4・9 61・11・1	工業 団地	市教委	宮坂 光昭	縄・平	竪-158 (縄中-149, 平 -9) 土-657 (縄中)
18	ゆみはりひなた 弓張日向	諏訪郡原村1956 他	61・6・16 61・11・27	農業 基盤	村教委	平出 一治	旧・縄	ブロック-1 (旧) 竪-10(縄中)
19	前 沢	諏訪郡原村柏木	61・12・3 61・12・12	道 路	村教委	平出 一治	縄	竪-1 (縄中)
20	い 居 たいら 平	諏訪郡富士見町落合字猪沢 4436-4	61・3・17 61・9・9	住 宅	町教委	武藤 雄六 小林 公明	縄	竪-11, 建-15, 墓壇-150 共に縄文
21	なか 中 みや 宮 原	飯田市上久堅柏原	61・5・27 61・8・25	ほ 場	市教委	小林 正春	縄・弥・古	竪-68(縄50, 弥5, 古13) 土-89, 方形配列土壇2 建-25(古)
22	塚六古墳	飯田市上久堅中宮 598-イ	61・10・1 62・1・10	道 路	市教委	小林 正春	古 墳	石室-2
23	細 田	飯田市大瀬木2030-1 他	61・10・20 62・1・10	道 路	市教委	小林 正春	縄・弥	竪-1 (弥) 土-4 (縄)
24	いつ 一 しき 色	飯田市鼎一色46-2 他	61・12・20 62・1・10	道 路	市教委	小林 正春		なし
25	じ 治 ぶ 部 坂	下伊那郡浪合村1192 他	61・6・15 61・7・26	学 術	村教委	今村 善興	旧・縄・近	竪-22(弥21, 古1) 土-多数(弥) 方形周溝墓1, 古墳1
26	細 野 原	下伊那郡下条村睦沢 7874-13	61・5・16 61・9・28	開拓 整備	村教委	今村 善興	縄・平・ 中・近	竪-2 (縄中1, 平～中1) 土-3 (縄) 柱穴群1
27	おおむら 大村廃寺跡	松本市大字浅間温泉433 他	61・4・1 61・6・7	学 術	市教委	神沢昌二郎	奈・平	竪-1 (平) 建-2柱列

調査の概要欄の略記 (時代) 旧・旧石器時代、縄・縄文時代、縄中・縄文中期、弥・弥生時代…(略)…中・中世、近・近世
(遺構) 竪・竪穴住居址、建・建物址、土・土壇、ヒールピット
(遺物) ○○箱＝整理箱にまとめた量を示す

の 概 要

主 な 遺 物	所 見
14箱, (古～平) 円面硯・馬歯・炭化米	
1 0 0 箱	集落の90%調査, 1と連続する大遺跡
検討中	
1 箱, 鉄先1 など	
25箱, 須恵器, 土師器	
石製模造品, ガラス玉 4 箱	鳥羽山洞窟と同種の葬所跡
中世土器類, 鉄器, 石器	交通路の番所か居館跡
縄文中・後期土器(土面 1) 古墳時代刀3 振	墳丘なし。周溝もないが、付近に 石室に使用したらしい大石あり
2 箱 (各時代)	高地性遺跡として注目
1 箱	高地性遺跡か「大百済毛」の地名あり。 須恵器は瀬戸系と下伊那系が半々
縄文早・中期遺物少量	
土器 200片, 石器10点	縄文早期押型文期の遺跡
5 箱, 石器30点	
旧石器, 縄文遺物少量	霧ヶ峰高原遺跡群の1つ
3 箱(中世かわらけ他)	
遺物多し	縄～中の大遺跡として確認 詳細分布調査の一環
遺物多数, 縄文中期完 形土偶1	縄文中期の大集落址, 土偶 は優品
20箱(旧～縄の土器・石器) ナイフ, 古形, 石斧など	旧石器時代は良好な遺跡。 縄文中期住居址9は新道期
1 箱	
60箱 硬玉製飾玉 7	径60mの環状集落, 重要遺跡 のため住宅建設断念
50箱	押型文期住居1, 650mの高地に縄文中 期と古墳時代の大集落がある点注目。
5 箱	自然地形利用の特殊な形態
4 箱	7 0 0 m前後の高地性遺跡
なし	遺跡は調査範囲外
旧石器 350片, 縄文石器30 他	旧石器出土範囲60×50m, 湿地帯に 面する傾斜面にブロック
1 箱	縄文中期集落の一部か。平安・中世 の墓域や近世の猪土手もある
10箱(青銅製品, 木材 土器他) 古瓦 100片	廃寺に結びつく遺構なし。集 落址の一部。木材の遺存多い

奈文研研修報告

縄紋施紋法調査課程

調査研究員 平林 彰

昨年、4月17日から23日まで、奈文研の特別研修『縄紋施紋法調査過程』を受講する機会を得た。延べ6日間にわたる研修は、縄の撚り方実習と縄文施紋原理の習得に加えて、「縄文土器の紋様とその意味」「縄文土器の文様」「押型紋施紋法」と広い視野に立った講義も行われた。

導入としてE・S・モースに始まる縄紋研究史が取り上げられ、山内清男によって大成されるまでの縄文施紋法に関する先学の試行錯誤の過程が明らかにされた。講義の合間には、縄を回転させることによって得られる紋様は、その各要素が、例えば「条」や「節」が繰り返し現れるという、重要な縄紋施紋原理についての説明があった。

中心課題の縄の撚り方実習では、自分の手で実際に縄紋原体を作成し、さらにこれを粘土板上に展開させることで施紋効果を確認する作業を反復した。同じ撚り方をしても原体の質や撚り方の強弱、あるいは土器面の乾湿によって違った施紋効果が得られるし、異った撚り方をしても非常に類似した効果が期待できる場合がある。こうした中から、縄文人の道具製作に係る原材料選択・加工技術等にもみる生産力の逞しさと、造型・デザイン等の美意識に係る創造力の豊さを垣間見る思いがした。

考古学が、現在に残された過去人類の行動結果としての物質そのものを通じて過去の人間社会の構造の一端を明らかにする学問であることは、いまさら言うまでもない。今回の研修では、多くの仮説に基づいた実験に依ることなく、生の資料を詳細に観察することの重要性と必要性とを体験することができた。緻密な縄紋研究の積み重ねによって、やがては施紋者個人を彷彿とさせる日が来るのもそう遠い将来ではなからう。

遺跡保存整備課程

調査研究員 和田 文人

去る、6月5日より6月25日までの20日間、奈文研における「遺跡保存整備課程」に参加した。

講義内容は、遺跡の保存と活用、遺跡の整備、整備設計、整備施工と管理、遺構の保存科学、整備材料、建物復原、遺跡の種類による整備手法(集落・古墳・

No.	遺 跡 名	所 在 地	期 間	目的 原因	主体者	担 当 者	調 査	
							時 代	主 な 遺 構
28	いで かわ みなみ 出 川 南	松本市大字並柳 1 1 - 2 他	61・5・27 61・6・24	住 宅	市教委	神沢昌二郎	弥・平・中	竪-5 (弥3, 平2) 溝-1 (弥)
29	三 の 宮	松本市大字島立 3 0 8 5 他	61・6・26 61・10・17	ほ 場	市教委	神沢昌二郎	弥・中・近	竪-2 (弥) 建物址など 各時代に及び遺構約60
30	みやふらはんむら 宮淵本村	松本市大字宮淵本村 1 0 3 他	61・6・9 61・8・9	建 物	市教委	神沢昌二郎	弥・古	竪-23 (弥21, 古1) 土多数 (弥) 方形周溝墓 1, 古墳 1
31	しも はら 下 原	松本市大字里山辺 3 3 2 6	61・6・13 61・7・2	建 物	市教委	神沢昌二郎	古	竪-4 (古)
32	うづ はし 埋 橋	松本市県 3 - 5 - 1	61・6・14 61・7・3	建 物	市教委	神沢昌二郎	弥・奈・平	中近世の溝, 畦状遺構
33	たか ばな 高 畑	松本市芳川村井 8 9 2 - 9 6 8	61・7・1 61・7・28	建 物	市教委	神沢昌二郎	縄・古~平	竪-3 (古・奈・平各1)
34	せい しん 清 心	松本市大字内田 2 2 2 0 1 2 2 2 2	61・7・21 61・9・13	ほ 場	市教委	神沢昌二郎	縄・中	竪-2 (縄) 土100以上 (縄30, 中世80)
35	砂 原	松本市大字内田 1 1 2 8 1 1 4 8	61・7・21 61・9・13	ほ 場	市教委	神沢昌二郎	縄	竪穴状遺構 (縄)
36	かんばやしかわにし 神林川西	松本市神林 6 1 5 1 6 1 8	61・8・18 61・8・25	ほ 場	市教委	神沢昌二郎	縄・中	溝-1 (中世)
37	あがた まち 県 町	松本市県 2 - 1 - 1	61・10・13 61・11・16	建 物	市教委	神沢昌二郎	平	竪-13 (平) 土・溝
38	推定信濃 国府跡	松本市大村石原畑 6 0 9	61・10・20 61・11・5	学 術	市教委	神沢昌二郎	平	竪-9 (平)
39	た かわ ばた 田 川 端	塩尻市大字中西条 9 5 他	61・7・29 61・9・13	ほ 場	市教委	鳥羽 嘉彦	縄・弥・平	竪-63 (縄前5, 弥後39, 平18, 他1)
40	りゅう じん 竜 神	塩尻市大字片丘竜神 1 0 9 8 5 - 1	61・10・6 61・10・22	建 物	市教委	鳥羽 嘉彦	縄	竪穴状遺構1, 小竪穴40
41	今 泉	塩尻市大字片丘北熊井	61・10・21 61・11・4	道 路	市教委	伊東 直登	縄	ロームマウンド 1
42	むら ばり 宗 張	塩尻市大字中西条 1 3 9 他	61・10・24 61・11・25	ほ 場	市教委	鳥羽 嘉彦	縄・弥・平	縄文前期配石 1
43	竹 ノ 花	塩尻市大字片丘北熊井	61・11・5 61・11・22	道 路	市教委	伊東 直登	縄	竪-1 (縄中), 小竪穴など
44	砂 田	塩尻市大字塩尻町 3 6 6 - 1 他	61・11・21 61・12・5	土 地	市教委	鳥羽 嘉彦	縄・弥・ 平~中・近	竪-4 (弥後)
45	中 原	塩尻市大字片丘北熊井	61・11・25 61・12・11	道 路	市教委	伊東 直登	縄・平	小竪穴 8, ロームマウンド 4
46	菖蒲平窯跡 (76-7)	南安曇郡豊科町大字田沢 菖蒲平	61・6・1 61・9・30	開 発	町教委	山田 真一	平	平安窯址26基のほか 住居址, 土壌など
47	うま やま 上の山窯跡 (76-10)	南安曇郡豊科町大字田沢 上の山	61・6・1 61・9・30	開 発	町教委	山田 真一	平	平安の窯址21基のほか 住居址, 土壌など
48	菖蒲平窯跡 (76-7)	南安曇郡豊科町大字田沢 8 0 7 5 - 1 他	61・8・5 61・9・5	電 気	町教委	山田 真一	平	土-1
49	上の山城址	南安曇郡豊科町大字田沢 8 2 0 6 - 2	61・8・5 61・9・5	電 気	町教委	山田 真一	中	なし
50	ごしきのいわや 魏石鬼岩屋	南安曇郡穂高町有明 7 2 8 4 - 2	61・9・29 61・10・5	学 術	町教委	桐原 健	古墳	(石室内調査)
51	しん はやし 新 林	南安曇郡穂高町大字牧 1 0 8 6 - 1 他	61・12・5 61・12・27	学 術	町教委	山下 泰永	縄	竪-4 (縄前2, 同中2) 敷石住居 1
52	みち した 道 下	南安曇郡三郷村大字温楡	61・9・28	ほ 場	村教委	山田 瑞穂	平	なし
53	家 の 前	南安曇郡三郷村大字小倉 北小倉	61・10・5	道 路	村教委	山田 瑞穂	縄	なし
54	福島古窯跡	木曽郡木曽福島町 4 6 5 4 - 1	61・6・1 61・10・31	学 術	町教委	神村 透	近	窯址 1
55	マツノバリ	木曽郡日義村 4 0 5 0 他	61・10・13 61・11・28	排 水	村教委	山下 生六	縄・弥・平	竪-32 (縄中30, 平2)
56	西 の 原	大町市大字常盤 9 9 3 - 1 他	61・4・14 61・4・18	道 路	市教委	篠崎健一郎	中	集石・ ビットなど1 (中世)

の 概 要	
主 な 遺 物	所 見
8箱、古式土師器多し	弥生、平安を層位的に確認
10箱、鉄器、銭貨、人骨、獣骨など	墓地の一部を検出か
30箱、弥生石器に良好な資料多し	弥生中～後期集落石器セットは良好
2箱	古墳時代後期集落址の一部
なし	
3箱、縄文晩期土器棺1	古墳時代後期～平安にかけての集落址か？
5箱	縄文前期諸磯A・B期住居址と中世墓地
古銭2、陶磁器片50	
縄～弥、中世土器少	
15箱、緑釉15片	平安後期集落、洪水による埋没状況わかる緑釉の多さ注目される
5箱	一般集落、国府の遺構未検出
縄文前期～平安まで遺物多し	弥生後期では松本平でも最大級の遺跡
縄文中期遺物少量	遺跡の周辺部らしい
少量	遺跡の周辺部らしい
縄・弥と平安遺物少々	遺跡の周辺部らしい
同期遺物少々	遺跡の周辺部らしい
同期遺物少々	弥生後期集落址を確認
縄文中期・平安遺物少々	平安期集落が隣接するらしい
60箱、縄文も少量	新しく発見された窯址もある。近く調査
80箱、縄文も少量	新しく発見された窯址もある。近く調査
1箱、古瓦片1	遺物からみて周辺に住居址など存在か
なし	
2箱、馬具など少量	自然の洞窟内に石室をもつ特殊な古墳
4箱（縄早～後）	遺構面浅く破壊部分が多い
なし	遺跡の中心を離れているらしい
なし	
21箱、窯材片多し	有段式縦ザマ式登り窯大半崩壊、江戸末期
60箱（復元可能30以上）	木曾最大の遺跡各期に良好な遺物多し
少量	

寺院・官衙・城館・庭園その他）諸外国の整備例、実習としての遺跡整備例見学、整備設計と施工費の積算等であった。

歴史的文化遺産が、一部の人のものに止まるものでなく、皆で共有し、その価値を高めて行くためには、広く公開され、利用されることが望ましい。その意味で、遺跡整備の意義は大きい。

整備は、住民のニーズに答えることも大切となるが、遺跡からあまりにも掛け離れた施設を設けたり、歴史を歪曲するようなことは慎み、あくまでも遺跡主体の整備を心掛けるべきである。そのようなことを考慮し、整備にあたっては、遺構の復元、平面表示、さらには、施設や植栽等の十分な工夫が必要となる。

また、比較的、整備前段階や整備過程よりも、整備後の管理運営面での予算が取りにくいといわれる。整備したことは良いが、再度、荒れてしまうことがあってはならない。整備後の維持管理・運営や、常駐の専任職員等が大きな課題となっていることが現状である。さらに整備されたものが破壊されないためにも、利用者の正しい利用法の啓蒙も行われる必要がある。

上記のような課題に対して、適切な施策を講じながら、今後、さらに価値の高い遺跡保存整備が行われなくてはならないといえる。

長野県内調査報告書紹介(3)

◆^{からま}借馬遺跡Ⅳ・^{けみ}花見遺跡—長野県大町市埋文包蔵地緊急発掘調査報告書（市埋文調査報告書9集）大町市教委（60-3）（A4 82+18）〈4次にわたる調査で85軒の住居址が掘出された北安地方最大の奈良～平安期集落址の4次調査結果と同時期の生産域の一部〉

◆松本市島立南栗・北栗遺跡・高綱中学校遺跡・条里的遺構—緊急発掘調査報告書（松本市文化財調査報告35）松本市教委・中信土地改（60-3）（B5 142+16）〈松本平西郊に展開する条里的遺構内やその周辺の遺跡、古墳～平安集落址の調査。南栗・北栗で住居址96、掘立柱建物址15棟のほか、県下初めての土器に貼りついた紙が出土した。〉

◆推定信濃国府—第三次調査報告書（市文化財調査報告37）松本市教委（60-3）（B5 18+6）〈国府址を推定できる資料は今回も未検出〉

◆北浦遺跡—下伊那郡上郷町建設課・同町教委（60-3）（B5 27+8）〈中世製鉄工房址関係遺構〉

◆姥ヶ沢—中野市教委（B5 102+14+カラー1）〈縄

文中期・古墳各1の住居址ほか、北陸方面との関係を強く示す縄文中期土器の好資料と完形土偶は逸品。ピットや焼土址から、土偶など特殊遺物が出土するなど数少ない北信濃縄文中期遺跡の報告

◆不動坂遺跡群II・古屋敷遺跡群IIー緊急発掘調査報告書 東部町教委・東信土地改(B5 136+16+カラー1)〈両遺跡群とも縄文前～後期の住居址・土壌等を検出。中～後期土器は好資料。中世の陶磁器類も少量〉

◆池ノ平遺跡群ー八千穂村大反遺跡・塩くれ場遺跡の尖頭器文化 八千穂村池の平遺跡発掘調査団(61-3)(B5 89+11)〈八ヶ岳東麓標高1300～1800mに点在する遺跡群中の尖頭器文化期2遺跡の調査。野尻湖グループによる地質・考古両面からの考察がある。〉

◆長野県木曾郡宮の原(元宿)遺跡ー中世遺跡(日義村の文化財7) 同村教委(61-3)(B5 28+15)〈中世陶磁器や鉄製品・古銭など出土 遺構なし〉

◆森将軍塚古墳ー保存整備事業等5年次発掘調査概要 更埴市教委(61-3)(A4 30+10)〈56年度から始まった同上計画5年目の成果、墳丘の構造解明を一段と進め、埴輪・金属器等のレポートも掲載〉

◆開田高原大原遺跡ー押型文土器と石器、国道361号線改良にともなう埋文包蔵地発掘調査報告書 木曾建設事務所・開田村教委(61-2)(A4 83+22)〈縄文早期遺跡の好例・県下押型文土器研究の新視点をまとめとして掲載。特殊磨石なども多い〉

◆北ノ久保遺跡ー長野県上高井郡高山村北ノ久保遺跡発掘調査報告書 同村教委・北信土地改(61-3)(B5 31+9)〈縄文土器・陶磁器少量、弥生後期、古式土師器などの既出遺物も紹介〉

◆田草川尻遺跡IVー国道117号線県単道路改良工事に伴う調査報告書 飯山市教委(市埋文調査報告13集)(61-2)(B4 27)〈縄文前期・弥生後期・古墳時代土器など少量〉

◆吉田川西遺跡ー吉田長畝土地区画整理事業発掘調査報告書 塩尻市教委(61-3)(B4 13)〈遺跡周辺部のため遺構・遺物少ない〉

◆西浦遺跡群 西浦・竹田峯ー長野県佐久市岸野西浦・竹田峯遺跡発掘調査報告書 佐久市教委・佐久埋文センター(同センター調査報告書1)(61-3)(B5 174+49)〈弥生中期～平安にわたる住居址26のほか溝などの遺構、縄文～中世遺物など好資料あり〉

埋文センター日記抄(昭和62年1月～3月)

- 1月6日 佐久地区遺跡確認打合せ(文化課・佐久市教委・センター)
- " 13日 塩尻・松本地区の調査結果を中心に、県老人大学講座で発表(樋口調査第一部長)
- " 17日 塩尻市吉田川西遺跡の調査概報を、信濃史学会研究会で発表(原明芳調査研究員)
- " 23日 水野正好奈良大教授来所
- " 30日 森島稔理事来所、岡谷市中島B遺跡出土石器見学指導。埋蔵文化財ニュースNo19刊行
- 2月3日 長野県遺跡指導委員会(於長野市) 会議前長野市塩崎地区の長野線予定地域を視察。沖積地発掘法など指導をうける(4日まで)
- " 5日 千葉県房総風土記の丘博物館折原繁・深沢克友氏縄文中期土器の件で来所
- " 7日 松本地区展示会(於松本市あがたの森文化会館) 8日まで2日間で900名見学
- " 8日 昭和61年度契約変更書提出
- " 9日 佐久地区埋文調査調整会議(於佐久公団)(公団・文化課・県高速道事務所・センター)
- " 12日 4県連絡協議会(於群馬県・高橋副理事長・丸山調査第2部長)13日まで
- " 13日 麻績村中央道対策関係者来所見学
- " 17日 佐藤信文化庁文化財保護課技官来所

- 2月20日 62年度予算案提出
- " 24日 田辺昭三京都市埋文研究所調査部長、戸沢充則明治大教授来所
- " 25日 宮本長二郎奈文研集落研究室長来所。建物址・住居址等の指導をいただく
- " 27日 佐久地区埋文調整会議(於公団)(公団・文化課・センター)(特に予算を中心に)
- 3月2日 佐久地区栗毛坂遺跡で重機による表土剥ぎ作業開始(23日まで)
- " 11日 明科・麻績・坂井地区埋文調査打合せ(於豊科公団)(公団・高速道事務所・文化課・センター)(三村常務理事・丸山調査第2部長)、長野県調査事務所予定建物管理打合せ(長野市篠ノ井)(高橋副理事長・西沢局長・堀内総務部長・樋口調査第1部長)
- " 17日 輸入陶磁器研究会、講師は森田勉九州歴史資料館主査(18日まで)
- " 19日 明治大戸沢充則・小林三郎教授・国学院大吉田恵二助教授来所
- " 20日 第12回理事会(於長野市国際会館)。奈良国立博物館井口喜晴考古室長来所
- " 23日 林茂樹理事来所
- " 25日 奈文研山中敏史主任研究官来所
- " 30日 明科光地区地権者現地説明会(三村常務・樋口調査部長、竹内・平林調査研究員)